

事業コード	H18-建-継-42		区 分	国庫補助 県単独
事業名	通常砂防事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	溪流保全工		班 名	傾斜地保全・砂防班 (tel) 018-860-2532
路線名等	赤沢川		担当課長名	河川砂防課長 佐々木 卓郎
箇所名	鹿角市尾去沢		担当者名	主 幹 荒 木 洋
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施 策 名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	05	施策目標(指標)名	土砂災害危険箇所整備率

1. 事業の概要

事業期間	H10 ~ H22 (13年)	総事業費	11.0億円	国庫補助率	5/10	
事業規模	溪流保全工L=911.9m					
事業の立案に至る背景	<p>赤沢川は、標高551.0mの山麓に源を発し、上山集落を通過して赤金川に合流し一級河川米代川に注ぐ流域2.58km²の土石流危険溪流である。流域の地質は第三紀火山砕屑岩類を基盤とし風化が著しく進みいたるところで溪岸崩壊を著しく土石流災害の恐れが高まっている。下流保全地域には人家が密集しており、災害時要援護者関連施設(尾去沢保育園)や市道等の公共施設もあることから、今後の集中豪雨による土砂災害は甚大なものと予想される。</p> <p>このようなことから、流出土砂による被害を防止し、地域住民の生命・財産を保全するため、砂防施設を設置し平成22年度の完成を目指すものである。</p>					
事業目的	<p>【主たる目的】 砂防施設を設置することにより、流出土砂による被害を未然に防止し、土砂災害から住民の生命・財産を守る。</p> <p>【保全対象】 人家30戸、耕地2.3ha、橋梁12基、集会所、保育所、市道1,100m</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	950,000	1,095,000	145,000	調査解析及び本工事・用地の増	
	経費内訳	工事費	400,170	469,063	68,893	調査解析結果に伴う本工事の増
		用補費	310,380	367,314	56,934	対策工事の増に伴う用地の増
		その他	239,450	258,623	19,173	対策工事の増に伴う調査の増
	財源内訳	国庫補助	475,000	547,500	72,500	
		県 債	427,000	488,000	61,000	
その他		0	0	0		
一般財源	48,000	59,500	11,500			
事業内容	本工事 詳細設計 調査設計 用地補償	本工事 詳細設計 調査設計 用地補償				
事業の進捗状況	全体計画 平成17年度末投資額 進捗率	10.95億円 6.26億円 57.2%				
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	「あきた21総合計画」第3期実施計画において、「災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実」の施策として位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	法面崩壊や隣接地の地すべり調査により本工事・測量試験が増となったこと、また、市道付け替えにあたり各種協議・調整があったことから、完成が予定より長期化したため。					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	土砂災害危険箇所整備率				
	指 標 式	概成箇所数 / 危険箇所数				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	24.2 %		データ等の出典	危険箇所調査結果	
	実績値 b	20.8 %				
達成率 b/a	86.0 %		把握の時期	平成18年 3 月		

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	特になし			
	指摘事項への対応			
	特になし			

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	流域内では風化が著しく進みいたるところで溪岸崩壊が発生しており、下流保全地域には人家が密集し災害時要援護者関連施設(尾去沢保育園)等の公共施設が多数ある。今後の集中豪雨により土石流災害が発生した場合には、甚大な被害が発生する恐れがあり、地元からは砂防設備の設置要望もあることから、対策の必要性は高い。	20点
緊 急 性	流域内では風化が著しく進みいたるところで溪岸崩壊が発生しており、今後の集中豪雨により土石流災害が発生した場合には、甚大な被害が予想されることから、現在までに一部設備は設置されているが早急な完成が必要である。	5点
有 効 性	手段の妥当性(代替案立案の可能性) 通常砂防事業は砂防法第5条により工事は都道府県知事が行うものとして位置づけられている。また被害想定範囲は広範囲であり集団移転等の代替案の実現は困難である。 整備効果 対策により、下流域の多数の人家30戸や災害時要援護者関連施設(尾去沢保育園)等の公共施設の保全を図ることができ、対策の有効性は高い。	10点
効 率 性	費用対効果 事業の費用対効果は1.68であり、効率性は高い。 ・総費用の現在価値 10.45億円 ・総便益の現在価値 17.52億円 コスト縮減等の取り組み状況 橋梁工を函渠工へ変更するなどコスト縮減に積極的に取り組んでいる。	25点
熟 度	地域の状況 地元住民及び鹿角市との調整に難航したが、現在は合意形成が図られている。 事業進捗の見込み 地元との調整に難航し事業進捗に遅れが生じたが、平成22年度の完成を予定している。 環境対策 土工部分の法面緑化に在来種を使用するなどの対策を講じている。	20点
判 定	ランク () 地元からの要望が高く「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。また、早急な土砂災害解消のために、コスト縮減及び計画的な事業執行を行い、効率性及び熟度を高め早期完成を図る。	80点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 砂防課所管事業

事業コード(H18-建-継-42)
箇所名 (鹿角市尾去沢)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズ				
	県民のニーズの変化	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
	計		20	20	
緊急性	危険度				
	斜面、溪流等の危険度	変化なしまたは増大している	10	5	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位低下、残斜面安定
		若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
	計		10	5	
有効性	災害発生時の影響				
	保全対象数の変化	変化なしまたは増加している	10	10	
		若干減少している(80%以上)	5		
		非常に減少している(80%未満)	0		
	計		10	10	
効率性	事業の効率性・進捗状況				
	費用便益分析(B/C)	2.0以上	10	5	
		1.0以上2.0未満	5		
		1.0未満	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
		課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0		
コスト縮減計画	具体的なコスト縮減計画がある	10	10		
	具体的な計画はないが、検討中である	5			
	コスト縮減計画無し	0			
	計		30	25	
熟度	地元の協力状況				
	事業の進捗状況	計画どおり進捗している(100%以上)	10	0	
		概ね計画どおり進捗している(70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている(70%未満)	0		
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	20	用地、補償物件等
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
	課題はあるが、解決する見込みである	5			
	課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0			
	計		30	20	
合計			100	80	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		